

平成29年度 吉野町市民プラザ 自己・行政評価シート

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価		
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価	
1 市民への文化芸術の鑑賞、創作活動の機会を提供します	①地域の方が身近な施設で、質の高い文化芸術を体験する機会、きっかけをつくります。	□吉野町市民プラザ落語会入場者数	180名	190名	10/25「桂歌丸落語会」190名	【成果】 ・上質な芸術を体験する「桂歌丸落語会」「スーパーギタークリニック」参加者は目標を上回り、高い満足度でした。 ・新規取り組みの「ウイークデイシリーズ」「tvk番組制作記」は、新たな来場者・定期利用者を呼び込みました。 ・ヨコハマトリエンナーレ2017応援プログラム「みなもにうつるまち」は、身近な場所で若手映像作家の作品を鑑賞する機会を提供しました。 ・「アートアンドクラフト・マーケット」は、初めて夏・冬の2回開催しました。夏は「吉野町音楽空間」、冬は「クリスマスロビーコンサート」と同時開催し、にぎわいを創出しました。 ・写真講座に連動した写真展を追加事業として開催し、多くの観覧者がありました。	【評価できる点】 ・地域との関わりの中で従前から継続して行ってきた事業のほか、これまで施設に定着した事業が着実に引き継がれ実施されました。 ・指定管理者の強みを生かした追加事業や、新しい切り口による事業展開が見られ、創意工夫しながらこれまでにならぬ取組にも着手する姿勢がありました。 ・市の進めるトリエンナーレとの連携事業を積極的に行い、事業内容の変更はあったものの、観覧者数も多く好調だったことがうかがえます。 ・真夏やクリスマスなどの季節に合わせたイベントや、地域のイベントに合わせたマーケットの開催など、地域の賑わいを創出しています。	
		□親子で楽しむコンサート入場者数	150名	85名	5/5「チャレンジ・ザ・ギターこどもの日スペシャル」85名			
		■親子で楽しむコンサート 体験を交えて親子で演奏を楽しむ機会を提供	機会の提供	機会を提供	—			ギターの鑑賞と演奏体験を家族みんなで楽しむ機会を提供しました
		■吉野町ギタークリニック開催	開催	8/14開催	—			8/14「吉野町スーパーギタークリニックVol.2鈴木茂」参加105名
		□「月曜日の音楽会」「月曜日の上映会」(仮)(新規)参加者数	延400名	延235名	C			ウイークデイシリーズ(新規) 10/16,30,11/13,27「月曜日の経絡ヨガ」20名,18名,16名,16名 11/14「声楽とピアノで贈る四季の曲」135名 3/22「若手落語会」30名
	②講座やワークショップを開催することで、文化芸術への理解・共感を高めていきます。	□ギターワークショップ参加者数	延60名	延62名	B	6/4-8/27「チャレンジ・ザ・ギター」参加者30名 1講座(10回) 1/14-3/18「ステップアップ・ザ・ギター」参加者32名 1講座(7回)		
		□tvk番組制作記(新規)参加者数	80名	35名	C	tvk開局45周年特別企画「tvk番組制作記」(新規) 35名 洋楽を中心にtvk音楽番組の歴史をたどり、1980年～2000年代を振り返りました。		
		□横浜トリエンナーレ関連事業参加者数	30名	280名	A	横浜トリエンナーレ関連事業 10/5-10/9ヨコハマトリエンナーレ2017応援プログラム「みなもにうつるまち」観覧者280名 ワークショップに代えて、若手映像作家の作品展示を行いました。		
	③市民プラザでの芸術体験を通じて、地域への愛着につながるような内容、工夫ある事業を実施します。	□クリスマスロビーコンサート入場者数	1,000名	延1,218名	A	12/9,10クリスマスロビーコンサート 総入場者1,218名(マーケットと合算)2日間12回		
		□アートアンドクラフト・マーケット参加団体数	延80団体	延83団体	B	7/29,30「真夏のアート&クラフトマーケット-親子で行こう-」参加41団体 12/9,10「クリスマスアート&クラフトマーケット-みんなで行こう-」参加42団体		
		■「南まつり」「光のぶろむなあと」に合わせて年2回手作り市を開催	開催	7月,12月開催	—	「南まつり」にあわせたマーケットを初開催。「光のぶろむなあと」にあわせた開催と、年2回手作り市を開催		
		□わたしのギャラリー出展数	延50点	延41点	C	わたしのギャラリー 出展数 41点(年間)		
		■わたしのギャラリー立体部門新設	実施	実施	—	立体部門を新設し、半立体作品が展示されました		
		■わたしのコレクション新設(追加)	準備	試行	—	新設部門「わたしのコレクション」を試行しました。(追加)		
		□朝からグランドピアノ参加者数	延180名	延170名	B	朝からグランドピアノ 参加者延170名(年間)		
追7	■吉野町芸術工房アーティスト選定	実施	選定	—	アーツコミッションヨコハマと共同でアーティストの選定を行いました			
	■写真講座参加者による写真展(みんなの写真展)(追加)	実施	実施	—	3/24-4/8「アート寺子屋 写真展 2018～春～」(追加) 写真講座参加者による作品展を行いました。観覧者2,290名			

平成29年度 吉野町市民プラザ 自己・行政評価シート

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

2 次世代育成に取り組みます。	16	①次代を担う子どもたちが、文化芸術を通じて、豊かな創造性や感受性を育むことができる事業を実施します。	□吉野町アート寺子屋参加者数	延100名	延130名	A	8/6,13,20,27吉野町市民プラザフリー寺子屋×ヨコハマ・パトリエンナーレ2017「井上唯《whitescaper》あみあみワークショップ」67名(4回) 8/26「キッズYouTuberになろう」40名 10/9「SNSで映える写真を撮ろう!! 焼菓子作り&撮影ワークショップ」17名 3/4「写真の基礎を学ぼう!」6名 参加者数 延130名(7回)	【成果】 ・アート寺子屋は、実施回数・参加者数とも目標を上回りました。ヨコハマ・パトリエンナーレやフォーラム南太田と連携したワークショップや、共同事業体の強みを生かした映像系講座など、間口を広げる取り組みが実りました。 ・芸術文化教育プラットフォーム学校プログラムに加え、特別支援学校へのアウトリーチ事業を追加実施しました。子どもたちが芸術に親しむ機会をより多く設けることができました。	【評価できる点】 ・現在の流行を意識した子どもに喜ばれる様々な企画を計画以上に実施しています。 ・来場者数も概ね目標を上回っており、プラザの存在が地域に浸透し、子どもたちに必要とされている施設であることが感じられます。 ・特別支援学校へのアウトリーチ事業を追加実施し、子どもたちが芸術に親しむより多くの機会を提供しています。
	17		□吉野町アート寺子屋開催数	年4回	年7回	A	8/6,13,20,27吉野町市民プラザフリー寺子屋×ヨコハマ・パトリエンナーレ2017「井上唯《whitescaper》あみあみワークショップ」67名(4回) 8/26「キッズYouTuberになろう」40名(1回) 10/9「SNSで映える写真を撮ろう!! 焼菓子作り&撮影ワークショップ」17名(1回) 3/4「写真の基礎を学ぼう!」6名(1回)	【課題】 ・「チャレンジ・ザ・ギターこどもの日スペシャル」の参加者が、目標を下回りました。ニーズ調査や内容の再検討が必要です。 ・光のぶろむなあと参加者数は前年より増加しましたが、天候の影響が大きいことが課題です。	【改善が必要と考えられる点】 ・様々な企画を実施していますが、参加者の少ないイベントもあるようです。新たな視点での企画立案のほか、既存の実施内容の取捨選択も検討してください。
	18		□親子で楽しむコンサート入場者数(再掲)	150名	85名	C	5/5「チャレンジ・ザ・ギターこどもの日スペシャル」85名		
	19		■吉野町芸術工房 こどもたちとアーティストが交流するための準備(再掲)	実施	実施	—	子どもたちがアーティストと交流する機会を提供するため、こども向けワークショップ経験のあるアーティストを特別支援学校へのアウトリーチ事業を、3回実施しました		
	追4		□のびのびコンサート(学校アウトリーチ)(追加)	実施	実施	—			
	20	②子どもたちが、自ら創作する喜びや、表現する楽しさを体験できる事業を実施します。	□子どもが作る光のワークショップ(南まつり出店)参加者数	200名	200名	B	7/29,30子どもが作る光のワークショップ(南まつり出店)参加者200名(2日間 1回)		
	21		□子どもたちの光のアート作品展(大岡川アートプロジェクト「光のぶろむなあと」)来場者数	7,500名	延6,500名	C	12/9,10子どもたちの光のアート作品展(大岡川アートプロジェクト「光のぶろむなあと」)来場者6,500名(2日間 1回)		
	22	③子ども同士がお互いの個性を尊重し合いながら、交流し、自己表現の大切さ、コミュニケーション力を高められる機会をつくります。	□吉野町アート寺子屋参加者数(再掲)	延100名	延130名	A	8/6,13,20,27吉野町市民プラザフリー寺子屋×ヨコハマ・パトリエンナーレ2017「井上唯《whitescaper》あみあみワークショップ」67名(4回) 8/26「キッズYouTuberになろう」40名 10/9「SNSで映える写真を撮ろう!! 焼菓子作り&撮影ワークショップ」17名 3/4「写真の基礎を学ぼう!」6名 参加者数 延130名(7回)		
	23		□水辺の光コンサート(大岡川アートプロジェクト「光のぶろむなあと」)出演団体数	12団体	16団体	A	12/9,10水辺の光コンサート(大岡川アートプロジェクト「光のぶろむなあと」)出演16団体(2日間 1回)		
	24		□横浜市芸術文化教育プラットフォーム学校プログラム実施数	5校	5校	B	7/11-13 相武山小(ダンス) 9/1,8,15 永野小(ダンス) 12/12-14 南小(邦楽) 12/18-20 永谷小(クラシック音楽) 1/12 中村特別支援(音楽鑑賞)		
3 市民協働、市民主体の活動を支援し、地域人財を育成します。	25	①地域で文化活動を担う人材を育成するための事業を実施します。	□写真講座(新規)参加者数	20名	延37名	A	10/9「SNSで映える写真を撮ろう!! 焼菓子作り&撮影ワークショップ」17名 3/4「写真の基礎を学ぼう!」6名 3/4大人のアート寺子屋「モノクロの魅力」14名	【成果】 ・新規企画の写真講座は、一般向け・こども向け計3講座を開催し、延37名の参加がありました。特に、一般向け中級講座への関心が高く、成果発表展にも意欲的な参加がありました。	【評価できる点】 ・人材育成事業では、時代の流れを取り入れた意欲的な企画がなされています。参加者の少ない事業もあったようですが、ニーズを意識した企画を行う姿勢を評価します。 ・市民の活動支援として発表の場を用意することは、活動意欲の向上につながり、利用者同士の交流の場としても役立ちます。目標を上回る結果が示されており、利用者のニーズに合った取組であることがわかります。 ・ウェルカムプラザの団体数の多さから、地域に密着した施設であることが分かります。
	26		□WEB・映像制作講座(中級)参加者数	20名	4名	C	2/24-3/17「吉野町映像アカデミーVol.2～iphone・ipadでキミもYouTuberに!」参加者4名		
	27		■ワークショップ修了フォローアップ事業の実施	実施	実施	—	■発表機会の提供 9/3ポップスギターアンサンブルコンサート 12/9クリスマスコンサート ■ギターワークショップ、ヨガワークショップ修了者が活動を継続するための支援を行いました。		
	28	②市民が主体となって行う文化芸術活動を支援します。	□吉野町音楽空間(新規)参加団体数	10組	12組	—	7/29,30「吉野町音楽空間」(新規)参加12組(2日間)スタジオ利用者等が舞台上で演奏する機会を提供しました	【課題】 ・「吉野町映像アカデミーVol.2」の参加者が目標を相当下回りました。今後は、WEB発信のための文章講座など、間口を広げて実施します。	【改善が必要と考えられる点】 ・利用者が少なかった企画については、普段プラザを利用しない方が興味を示す内容のようにも感じます。そういった方に情報を届ける工夫も検討してください。
	29		■アートアンドクラフト・マーケット(再掲)制作活動を行う地域の方が、日ごろの成果を展示、発表、交流できる機会作り	機会の提供	7月,12月機会の提供	—	制作活動を行う地域の方が、日ごろの成果を展示、発表、交流できる機会を年2回設けました。		
	30		□ポップスギターアンサンブルコンサート2017入場者数	200名	延320名	A	「ポップスギターアンサンブルコンサート2017」入場者320名		
	31		□ギャラリーホワイエ活用事業回数	15回	32回	A	ギャラリーホワイエ活用事業 32回(通年)		
	32		■バンドコンテスト開催準備	実施	実施	—	日程調整や内容の打合せを、関内ホール、吉野町市民プラザ、岩間市民プラザ3館で行いました。		
	33	③市民団体とともに行う事業を通じて、施設と市民との良好な関係を築き、地域コミュニティの中核として認識されることを目指します。	■大岡川アートプロジェクト実行委員会への支援	実施	実施	—	大岡川アートプロジェクト実行委員会へ参画し、「光のぶろむなあと」及び関連事業に協力しました。写真講座の講師派遣、写真コンテストの講評を新規に行いました。		
	34		□ウエルカムプラザ参加団体数	25団体	44団体	A	ウエルカムプラザ 参加延44団体(通年) 優先利用(公演、展示)落語会、ミュージカル、絵画展、写真展など 延33団体 優先定期利用(練習)オーケストラ練習、和太鼓練習など 11団体		
35		□ウエルカムプラザ新規団体数	5団体	10団体	A	ウエルカムプラザ 新規10団体			
追6		■ウエルカムプラザ定期利用団体紹介(追加)	実施	実施	—	インフォメーションにウエルカムプラザ定期利用団体活動紹介を掲載し、活動を支援しました。			
36		□子どもが作る光のワークショップ(南まつり出店)(再掲)参加者数	200名	200名	B	南まつり出店(再掲) WS参加者数200人(2日間) 大岡川アートプロジェクト実行委員会と共同で、ワークショップを開催しました。			

平成29年度 吉野町市民プラザ 自己・行政評価シート

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

4 文化芸術を通じた地域のネットワーク形成へ寄与し、文化的コモンズ形成を牽引します。	37	①各市民プラザをはじめ近隣の施設(文化・福祉等)や各種文化団体、商店街、自治会等とのネットワーク構築につとめ、関係性を強化します。	■吉田新田350年記念事業開催支援(新規)事務局を担い地域の魅力を発信	実施	実施	—	吉田新田350年記念事業開催支援(新規)事務局を担い、新たな地域の魅力を発信する事業を支援しました。 4/28「YS350落語会」、5/3「ザ・ヨコハマパレード」参加、7/17「第二回YS350落語会」、10/17～28ガリバーマップ展、10/21運河パレード、11/14～23 吉田新田350周年写真展	【成果】 ・吉田新田完成350年にあたり、地域の街づくり会、商店会、観光団体等との連携による記念事業実行委員会の事務局を担い、地域拠点としての機能を強化しました。 ・吉田新田350年記念関連展示を2回実施し、地域の魅力を発信できました。 ・当初計画に加え、横浜パトリエンナーレ、マチノトリエンナーレ、フォトヨコハマへの参加と、区内の地域ケアプラザへの講師派遣を新規に行い、連携の幅が一層広がりました。 ・学校の連携について、コンサートへの出演に加え、「音楽空間」のボランティアスタッフとして新たな形でご参加いただきました。 ・町のにぎわいつながり計画では、新規に市電保存館との連携ができました。  【課題】 ・吉田新田周年事業終了後も、地域連携を継続するための仕組みが必要です。	【評価できる点】 ・ガリバーマップ展などユニークな仕掛けを行うなど、地域への興味を掘り起こす取組がなされています。 ・地域の団体や学校のほか、他の文化事業等と積極的に関わりを持ち、活動に参加することは、プラザの存在を地域に広めることにも役立ち、評価できる取組です。  【改善が必要と考えられる点】 ・継続的に地域連携に取り組んでいくことを期待します。
	38		■吉田新田350年記念事業開催支援(新規)お三の宮神社フェスティバル開催協力	協力	協力	—	お三の宮神社フェスティバルの開催に協力し、「真夏のアート&クラフトマーケット」と相互広報を行いました。		
	39		□吉田新田350年記念事業開催支援(新規)シンポジウム参加者数	100名	145名	A	シンポジウムに代えて「ガリバーマップ展」会期中にワークショップを開催しました。 延145名(6回)		
	40		■大岡川アートプロジェクト「光のぶるむなあと」に参画し多様なネットワークを構築	実施	実施	—	大岡川アートプロジェクト実行委員会に参画し、地域の一員として「光のぶるむなあと」の実施にあたりました。9月に実行委員長が急逝し、綿密な打合せを行いながら、多様な団体と協働しました。		
	41		□大岡川アートプロジェクト「光のぶるむなあと」来場者数	7,500名	延6,500名	C	12/9,10 大岡川アートプロジェクト「光のぶるむなあと」来場者数6,500名(2日間)		
	追5	□近隣施設への講師派遣(追加)	実施	実施	—	区内の地域ケアプラザ撮影講座へ講師を派遣しました。			
	42	②地域のネットワークの中で継続した情報交換や共同事業、連携事業等を実施します。	■町のにぎわいつながり計画 定期的な交流機会を活用しつながりを継続	実施	実施	—	まるごとみなみ施設交流会(定例会、スタンプラリー)、町内会などの定期的な交流機会を活用しました。施設間連携事業を開催しました。 7/29 市電保存館による「真夏のアート&クラフトマーケット」特別出店 10/9 フォーラム南太田との連携事業 〈平成29年度まるごとみなみ施設間連携事業〉 吉野町アート寺子屋～秋～ SNSで映える写真を撮ろう!! 焼き菓子作り&撮影ワークショップ		
	43		□子どもが作る光のワークショップ(南まつり出店)(再掲)参加者数	200名	200名	B	南まつり出店(再掲) WS参加者数200人(2日間) 大岡川アートプロジェクト実行委員会と共同で地域のお祭りへ参加・出店し、地域連携を行いました。		
	44		■吉田新田350年記念関連展示(新規)地域の企業・施設・団体等と連携し開催	開催	2回開催	—	吉田新田350年記念関連展示(新規) 10/18-28ガリバーマップ展 11/14-23写真展「この顔に会える吉田新田」		
	45	③施設内外でのさまざまなアートプロジェクトと連携・支援するなど地域の文化コーディネーター役を担います。	□横浜トリエンナーレ関連事業(再掲)参加者数	30名	280名	A	10/5-10/9ヨコハマトリエンナーレ2017応援プログラム「みなもにうつるまち」観覧者280名		
	追1		■横浜パトリエンナーレに協力(再掲)(追加)	実施	実施	—	「横浜パトリエンナーレ」パフォーマンスワークショップ開催協力、「あみあみワークショップ」共同開催、作品制作協力を行いました。		
	追9		■マチノトリエンナーレに企画協力(追加)	実施	実施	—	「マチノトリエンナーレ」にプロデューサーを派遣し、企画運営に協力しました。		
	追10		■フォトヨコハマに参加(追加)	実施	実施	—	2/24-3/17「映像アカデミー2」 3/4「写真の基礎を学ぼう!」「モノクロの魅力」 3/24-4/8「アート寺子屋写真展」		
	46	■クリスマスロビーコンサート(再掲) 近隣学校と連携	実施	実施	—	12/9,10 学校連携によるコンサートを実施しました。 フェリス学院大学音楽学部 横浜清陵高校合唱部 横浜英和小学校ハンドベルクラブ、合唱隊			
	追3	■「吉野町音楽空間」近隣学校と連携(追加)	実施	実施	—	「吉野町音楽空間」近隣学校との連携(追加) 横浜清陵高校軽音楽部員の運営協力を得ました。			
47	□アートアンドクラフト・マーケット(再掲)参加団体数	延80団体	延83団体	B	制作活動を行う地域の方が、日ごろの成果を展示、発表、交流できる機会を提供しました。 参加団体 83団体(2日間×2回)				

平成29年度 吉野町市民プラザ 自己・行政評価シート

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

5 地域コミュニティの形成・社会的包摂(ソーシャルインクルージョン)を推進します。	47	①アートを通じて、多様性を認め合える豊かな地域の礎を築き、地域コミュニティの活性化と社会的包摂の推進に努めます。	□横浜市芸術文化教育プラットフォーム学校プログラム実施数(再掲)	5校	5校	B	7/11-13 相武山小(ダンス) 9/1,8,15 永野小(ダンス) 12/12-14 南小(邦楽) 12/18-20 永谷小(クラシック音楽) 1/12 中村特別支援(音楽鑑賞) 表現する楽しみと個性を認め合い共感する力を育むアートプログラムを南区・港南区の5校で実施しました	【成果】 ・横浜パラトリエンナーレに協力し、障害のあるなしに限らず、地域に暮らす多様な人々がものづくりを通じて交流する市民活動に寄与しました。 ・芸術文化教育プラットフォーム学校プログラムでは、表現する楽しみと個性を認め合い共感する力を育むアートプログラムを南区・港南区の5校で実施しました。 ・町内会、子ども会、学校、環境NPO、社会福祉団体等、地域の多様な団体とともに事業をつくり、地域コミュニティに働きかけました。  【課題】 ・社会的包摂推進については、引き続き多様な働きかけを続けます。	【評価できる点】 ・多様性を認め合える社会の実現のために、学校や地域団体と積極的に関わり、文化を通じて新しい交流を生み出す取組を評価します。  【改善が必要と考えられる点】 ・引き続き、継続的な取組を期待します。
	48		□大岡川アートプロジェクト「光のぶろむなあと」(再掲)来場者数	7,500名	延6,500名	C	大岡川アートプロジェクト「光のぶろむなあと」町内会、子ども会、学校、環境NPO、社会福祉団体等、地域の多様な団体とともに事業をつくり、地域コミュニティに働きかけました。 来場者数6,500人(2日間)		
	追1		■横浜パラトリエンナーレに協力(再掲)(追加)	実施	実施	—	横浜パラトリエンナーレに協力(追加、再掲) 障害のあるなしに限らず、地域に暮らす多様な人々がものづくりを通じて交流する市民活動に協力しました。		
	追2		■横浜夢ファンド協力(追加)	実施	実施	—	「よこはま夢ファンド」にファンリテーターを派遣し、地域コミュニティの活性化に寄与しました。		
6 情報提供及び広報・プロモーションを実施します。	49	①メディア事業者を中心とする共同事業体の専門性を活かし、現在の市民プラザの“弱み”である情報提供・広報プロモーション力を強化します。	□tvk番組での事業告知・報告等回数	月1回程度	月1回実施	B	プラザ両館で月1回の告知枠を確保し、tvk「猫ひたプラス」にて、事業告知を行いました。 吉野町実施日 4/28, 6/23, 9/22, 11/24, 12/29, 3/9 7/4-8/14「吉野町スーパーギタークリニックVol.2鈴木茂」CMオンエア	【成果】 ・プラザ両館で月1回の告知枠を確保し、tvk「猫ひたプラス」にて、事業告知を行いました。共同事業体の強みを生かし、「スーパーギタークリニック」のCMをオンエアし、集客につながりました。 ・地域イベント情報、プラザで行われる催し物の記事をホームページに掲載しました。あわせて、動画編集のための館内環境を整備しました。 ・文化活動を発信するための写真講座、動画・WEB講座を開催しました。  【課題】 ・WEBアクセス数は目標に達しませんでした。今後、コンテンツを工夫します。 ・メディアプラットフォーム整備には引き続き取り組みます。	【評価できる点】 ・共同事業体による運営メリットを活かした広報活動がなされています。 ・広報誌の紙面デザインの改訂は、紙面のマンネリ化を防ぎ、読者の興味を惹くためにも良い取組です。  【改善が必要と考えられる点】 ・今後も共同事業体によるメリットを存分に発揮し、WEBページとSNSの効果的な活用を期待します。
	50	②2つの市民プラザのホームページのデザイン、トーン&マナーの統一を図り、よりわかり易く利用しやすい発信をします。	■WEBページに新たなコンテンツの追加	実施	実施	—	新たなコンテンツを追加しました。 アクセス動画(吉野町・南太田両駅) 吉野町アート寺子屋～夏～「キッズYouTuber! ならうトライ! 動画編集」作品紹介		
	51		□WEBページ年間アクセス数	200,000件	146,174件	C	アクセス数 146,174件(年間)		
	52	③WEB(SNS・動画含む)、紙媒体、テレビ、市広報等、クロスメディアによる広報プロモーションを行います。	□放送と神奈川新聞、タウンニュースと連携した広報を展開	実施	実施	—	クロスメディア広報を随時実施しました。(tvk、神奈川新聞、タウンニュース、ばど)		
	53		□「ブラザインフォメーション」発行回数	年12回	年12回	B	「ブラザインフォメーション」年12回発行 6月号より紙面デザインを改訂しました		
	54		□「ブラザインフォメーション」配布場所	150箇所	155箇所	B	「ブラザインフォメーション」市内155箇所配布		
	55	④地域の人材を育成し市域全体のプラトホームを設立	■まちづくり情報サイトの機能を、市民プラザホームページ内に構築	実施	実施	—	地域イベント情報、プラザで行われる催し物の記事をホームページに掲載しました。あわせて、動画編集のための館内環境を整備しました。		
	56		■文化活動に役立つ撮影講座を新規開催	実施	実施	—	写真講座(新規) 10/9「SNSで映える写真を撮ろう!! 焼菓子作り&撮影ワークショップ」 3/4「写真の基礎を学ぼう」 3/4大人のアート寺子屋「モノクロの魅力」 文化活動に役立つ撮影講座を開催しました。参加者37名(3回)		
57		□WEB・映像制作講座(中級)参加者数(再掲)	20名	4名	C	2/24-3/17「吉野町映像アカデミーVol.2～iphone・ipadでキミもYouTuberに!」参加者4名			

平成29年度 吉野町市民プラザ 自己・行政評価シート

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価	
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価
1 市民の文化芸術活動の発表・創作活動を始めとする多様な市民利用への施設の提供を行います。	①さまざまなニーズに対応する、公平・公正なサービス提供を行います。	■企画から本番まで、お客様の立場で相談に応じ、チケット販売や広報に協力 ■交替勤務による情報伝達不足がないよう、ネット上の情報共有ツールや、ノート等で情報共有 ■利用相談・見学会の開催(新規)	実施	実施	様々な相談に応じ、チケット販売や広報に協力しました	【成果】 ・お客様の立場に立った柔軟な対応を心がけ、利用率はすべての室場で目標を上回りました。 ・ホール見学会を新規開催し、予約につながりました。 ・「U25割引制度」について、市立高校校長会でのチラシ配布と、近隣高校への訪問等により、ご案内しました。改めて施設を知っていただくことができました。  【課題】 ・U25割引制度の適用事例はまだありません。若年層の誘致が課題です。	【評価できる点】 ・コマ間の延長利用など、利用者のニーズに柔軟に対応するとともに、新たに見学会を開催し利用者を開拓する取組に、前向きな姿勢が伺えます。結果として、すべての室場で目標を上回っていることを評価します。  【改善が必要と考えられる点】 ・特筆すべき事項なし。
	②利用率が高まる工夫を行います。	■若い利用者へのアピール「U25割引制度」 ■コマ間の延長利用に柔軟な対応 ■営業担当者によるPR活動	実施	実施	「U25割引制度」について、市立高校校長会でのチラシ配布と、近隣高校への訪問等により、ご案内しました コマ間の延長利用に柔軟に対応し、利用実態にあわせてご予約いただくことができました 地域活動団体、企業等へ月刊インフォメーションや事業チラシを配布しました		
	□目標利用率	ホール/94%(日) ギャラリー/56%(日) 会議室/53% スタジオ/77%(A~C平均)	ホール/97%(日) ギャラリー/57%(日) 会議室/54% スタジオ/80%(A~C平均)	B	すべての室場で、目標を上回りました		
	①来館者・利用者からのご要望・ご意見を受け止め、積極的に取り入れることでサービス向上につなげます。	■要望苦情は全スタッフで共有 ■緊急度・重要度から優先順位を決め、順次取り組み ■対応後は検証を行い、より良い改善につなげます □クレーム対応研修実施回数	実施	実施	要望苦情はメールや連絡ノートを活用し、全スタッフで情報を共有しました 個人情報の取扱など、重要事項については臨時に研修を実施し、全スタッフで取り組みました 対応後、研修で事例検討を行い、より良い対応を話し合いました。改善内容にあわせて受付マニュアルを改訂し		
	②対象に応じた情報収集のツールを活用した、来館者・利用者ニーズの把握・分析に基づく、サービスの向上	■ご意見箱、受付時の対応、公演時アンケートなどを通じ、利用者ニーズを把握 ■利用者向けのアンケートを実施	実施	実施	ご意見箱、受付時の対応、公演時アンケートなどを通じ、利用者ニーズを把握しました 利用者向けアンケートを実施し、施設・備品・運営の参考になりました。実施期間:10/1-31 動画編集のための館内環境を整備しました。アクセス動画(吉野町・南太田両駅)を作成・公開しました。		
	③地域の情報発信拠点としての顔をつくる取組	■動画を作成し、来場者への発信を強化	実施	実施	12/5接遇、クレーム対応研修		
	① 適切な運営組織体制と人材の配置	□共同事業体各社の得意分野を運営に活かす職員配置数	館長 1、副館長 1、事業担当 2、管理担当 2、舞台技術担当 1、運営補助 2、受付担当 5人員相当	館長 1、副館長 1、事業担当 2、管理担当 2、舞台技術担当 1、運営補助 2、受付担当 5人員相当	B		
	② 組織内の情報共有及び主要人材の能力確保	□各種会議の実施数	朝礼 1回/日 職員会議 1回/月 運営会議 4回/年 企画検討会 随時	朝礼 1回/日 職員会議 1回/月 運営会議 4回/年 企画検討会 随時	B		
□職員研修回数	年2回	年3回	A	集合研修 5/9,12/5 個人情報取扱研修 2/26~3/8			
3 組織的な施設運営を行います。	①適切な運営組織体制と人材の配置	□共同事業体各社の得意分野を運営に活かす職員配置数	館長 1、副館長 1、事業担当 2、管理担当 2、舞台技術担当 1、運営補助 2、受付担当 5人員相当	館長 1、副館長 1、事業担当 2、管理担当 2、舞台技術担当 1、運営補助 2、受付担当 5人員相当	B	【成果】 ・年2回の集合研修に加え、個人情報取扱研修を個別に実施し、スキルアップを図りました。 ・両プラザ間のみならず、関内ホール、区民文化センター各館と定期的に情報を交換しています。	【評価できる点】 ・施設運営向上のために、必要となる情報共有と議論の場が確保されています。また、個人情報取扱研修など職員のスキルアップにも取り組んでおり、利用者から信頼される施設運営につながっていると考えます。
	②組織内の情報共有及び主要人材の能力確保	□各種会議の実施数	朝礼 1回/日 職員会議 1回/月 運営会議 4回/年 企画検討会 随時	朝礼 1回/日 職員会議 1回/月 運営会議 4回/年 企画検討会 随時	B	【課題】 ・関内ホール・市民プラザ3館の連携を一層強化し、事業を共同開催します。	【改善が必要と考えられる点】 ・事業と研修の3館共同開催による、効率的な運営と経費の削減を期待します。
	□職員研修回数	年2回	年3回	A	集合研修 5/9,12/5 個人情報取扱研修 2/26~3/8		
	①個人情報保護・情報公開、人権尊重、環境への配慮、市内中小企業優先発注等の取組の実施	■インターネット上で、申込時の個人情報を安全に取り扱う仕組みを導入 ■施錠管理やデータのパスワード管理を徹底	実施	実施	インターネット上で、申込時の個人情報を安全に取り扱う仕組みを導入しました 施錠管理やデータのパスワード管理を徹底しました。 利用許可書の取扱方法について、手順書を配布し、全スタッフに研修を実施しました		
	■「横浜市」の保有する情報の公開に関する条例にそって情報開示	実施	実施	「横浜市」の保有する情報の公開に関する条例にそって対応するため研修を実施しました			
	■人権に配慮した運営、接遇	実施	実施	人権に配慮した運営、接遇を行うための研修を実施しました			
	■快適性を確保しつつ、節電に積極的に取り組み	実施	実施	快適性を確保しつつ、「管理標準」を活用して節電にも積極的に取り組みました			
	■「横浜市中小企業振興基本条例」を鑑み優先発注	実施	実施	小規模修繕や文具購入において、市内に主たる事務所又は事業所を有する中小企業に、できる限り発注しまし			
4 個人情報保護等、本市の重要施策を踏まえた取組を実施します。	①個人情報保護・情報公開、人権尊重、環境への配慮、市内中小企業優先発注等の取組の実施	■インターネット上で、申込時の個人情報を安全に取り扱う仕組みを導入 ■施錠管理やデータのパスワード管理を徹底	実施	実施	インターネット上で、申込時の個人情報を安全に取り扱う仕組みを導入しました 施錠管理やデータのパスワード管理を徹底しました。 利用許可書の取扱方法について、手順書を配布し、全スタッフに研修を実施しました	【成果】 ・インターネット上で、申込時の個人情報を安全に取り扱う仕組みを導入しました。 ・利用許可書の取扱方法について、手順書を配布し、全スタッフに研修を実施しました。	【評価できる点】 ・個人情報を適正に扱うことは、利用者の基礎的な信頼を得るための重要なポイントです。 ・インターネット上での対策を導入したことを高く評価します。
	■「横浜市」の保有する情報の公開に関する条例にそって情報開示	実施	実施	「横浜市」の保有する情報の公開に関する条例にそって対応するため研修を実施しました			
	■人権に配慮した運営、接遇	実施	実施	人権に配慮した運営、接遇を行うための研修を実施しました			
	■快適性を確保しつつ、節電に積極的に取り組み	実施	実施	快適性を確保しつつ、「管理標準」を活用して節電にも積極的に取り組みました			
	■「横浜市中小企業振興基本条例」を鑑み優先発注	実施	実施	小規模修繕や文具購入において、市内に主たる事務所又は事業所を有する中小企業に、できる限り発注しまし			
	□職員研修回数	年2回	年3回	A	集合研修 5/9,12/5 個人情報取扱研修 2/26~3/8		
	①適切な運営組織体制と人材の配置	□共同事業体各社の得意分野を運営に活かす職員配置数	館長 1、副館長 1、事業担当 2、管理担当 2、舞台技術担当 1、運営補助 2、受付担当 5人員相当	館長 1、副館長 1、事業担当 2、管理担当 2、舞台技術担当 1、運営補助 2、受付担当 5人員相当	B		
	②組織内の情報共有及び主要人材の能力確保	□各種会議の実施数	朝礼 1回/日 職員会議 1回/月 運営会議 4回/年 企画検討会 随時	朝礼 1回/日 職員会議 1回/月 運営会議 4回/年 企画検討会 随時	B	このほか、以下の会議を開催しました。 両プラザ館長・副館長会 関内ホール・市民プラザ3館連携会議 区文・プラザ館長会	

平成29年度 吉野町市民プラザ 自己・行政評価シート

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価	
Ⅲ維持管理目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価
1 施設及び設備の維持保全及び管理を行います。	①施設の安全・安心・快適環境維持と長寿命化対応の実施	■日常点検時定期点検時に発見した不具合については臨時補修し施設の安全性を確保	実施	実施	ギャラリーパネル吊具、トイレ部品交換など、日常点検時定期点検時に発見した不具合について、臨時補修しました	【成果】 ・日常点検・定期点検で発見した不具合に随時対応し、安全・安心な施設を保ちました。 ・利用状況に応じてトイレ、休憩スペースなどの清掃を行い、アンケートで「トイレが清潔で気持ちよい」との回答を得られました。 【課題】 ・部品供給終了機器の更新が課題です。	【評価できる点】 ・日常点検・定期点検を確実に実施し、施設の不具合等に誠実に対応しています。  【改善が必要と考えられる点】 ・引き続き、利用者に喜ばれる清潔な施設環境の維持をお願いします。 ・施設の不具合の情報については、引き続き、市との情報共有を積極的に行ってください。
		■消防設備及び法定点検を計画通り実施し発見された不具合の修繕を確実に実施	実施	実施	非常用発電機バッテリー、非常灯など、法定点検により発見された不具合の修繕を確実に実施しました		
	②保守点検、備品管理、環境維持の実施	■公共施設として必要不可欠な安全性と清潔感を保ち、かつ施設設備の機能維持を図るため、施設点検のための休館日を設定	実施	実施	施設点検のための休館日を年間16日設けました		
		■連続する作業可能日を設定	実施	実施	工事に対応するため、連続する作業可能日を年間4回設けました。横浜市による照明工事に際し、ホールを16日間貸し出し休止としました		
		■「管理標準」により、地球環境に配慮しながら、快適な環境を維持	実施	実施	「管理標準」により、地球環境に配慮しながら、快適な環境を維持しました		
		■「業務の基準」に則り物品管理簿により管理	実施	実施	「業務の基準」に則り物品管理簿により管理しました。		
		■巡回清掃の実施、美観・衛生管理を強化するなど、業務の基準を満たしながら、利用実態に則した満足度を向上させる清掃	実施	実施	利用状況に応じてトイレ、休憩スペースなどの清掃を行い、アンケートで「トイレが清潔で気持ちよい」との回答を得られました		
		■年間排出計画を定めて適切な分別、リサイクル化の推進など廃棄物の発生抑制	実施	実施	ルート回収に参加し、廃棄物管理責任者のもとに年間排出計画を定めて適切な分別、リサイクル化の推進を行いました		
		□定期的な施設点検日と職員研修(防災訓練等)日	月1~2日	月1~2日	B		
		□エレベータの保守点検回数	毎月1回	毎月2回	A		
2 小破修繕を着実に実行します。	①小破修繕の取組	□巡回点検実施回数	毎日1回	毎日1回	B	【成果】 ・小破修繕は、お客様の安全や利用直結する事項から優先的に実施しました。 【課題】 ・舞台音響・舞台機構など大規模修繕について、設置者と協議します。	【評価できる点】 ・施設の巡回をこまめに行い、利用者目線に立った修繕が行われています。  【改善が必要と考えられる点】 ・施設の不具合の情報については、引き続き、市との情報共有を積極的に行ってください。
		■日常の保守管理のなかで優先的順位をつけながら小破修繕	実施	実施	予約システムPCや駐車場車輪止めなど、お客様の安全や利用に直結する事項を優先し修繕しました。 電話交換機故障の際は、生産終了品のため中古部品で緊急対応後、横浜市による更新工事が行われました		
		■更新が必要なものについては横浜市と協議	実施	実施	横浜市施工工事(ホール照明卓、防火シャッター安全装置取付)実施と大規模改修に向けた協議・調整を行いました		
3 事故予防及び緊急時の対応を確実に実行します。	①事故防止体制・防犯、緊急時の対応・感染症対策等衛生管理の実施	■消防設備や避難経路の案内図を掲示	実施	実施		【成果】 ・事故発生時には横浜市と密に連絡し、問題解決にあたりました。 【課題】 ・古い設備を使用していることにより、思わぬ事故が発生するリスクがあります。	【評価できる点】 ・事故発生時の初動連絡が速やかに行われており、現場でも確実な対応がなされています。  【改善が必要と考えられる点】 ・特筆すべき事項なし。
		■建築設備、舞台設備不具合に迅速に対応し故障・停止を未然に防ぎ安全確保	実施	実施			
		■緊急時の連絡網を作成し市と共有・連携	実施	実施			
		■職員が館内を巡回し、日常の衛生管理を徹底	実施	実施			
4 防災に対する取組を行います。	①日常の取組、危機管理マニュアルの整備、防火・防災の取組、災害備蓄等の実施	■災害や危機が発生した場合、「人命の尊重」「生命の安全確保」を第一に対処	対処できる体制づくり	対処できる体制づくり	降雪時には職員が敷地内外の雪かきを行い、来館者の安全を確保しました	【成果】 ・危機管理マニュアル改定、非常物品の更新を行い、非常時に備えました。 ・降雪時には職員が敷地内外の雪かきを行い、来館者の安全を確保しました。 【課題】 ・限られた人員で災害などに対応できるよう、今後も繰り返し訓練することが必要です。	【評価できる点】 ・マニュアルの改訂にとどまらず、防災訓練の実施回数も多く、高い危機意識をもって施設運営にあたっていることが分かります。  【改善が必要と考えられる点】 ・特筆すべき事項なし。
		■地震、津波、停電、交通遮断、救急要請に対応した、危機管理マニュアルを作成	実施	実施	設備更新にともない、危機管理マニュアルを改訂しました		
		■環境創造局南部水再生センター(吉野ポンプ場)とも連携して活動	実施	実施			
		■防火・防災訓練については、所管の南消防署と相談	実施	実施			
		■非常時に備え、ヘルメット、レスキューセット、飲料水、非常食、簡易トイレ、簡易毛布、携帯ラジオ等を常備	実施	実施			
		□防災訓練の実施回数	年2回	年5回	A		
5 その他の管理に関する事項を実施します。	①適切な許認可及び届出等 ②施設の目的外使用 ③名札の着用 ④人権の尊重 ⑤近隣対策 ⑥書類の管理 ⑦行政機関が策定する基準等の遵守 ⑧法律の制定及び改正への対応	■許認可及び届出等が必要な場合は、適切に処理	実施	実施	イベント時の食品提供、客席基準に係る特例計画、著作権手続きを適切に処理しました	【成果】 ・イベント時の食品提供、客席基準に係る特例計画、著作権手続きを適切に処理しました ・人権研修を繰り返し実施しています。 【課題】 ・引き続き、法律や各種基準の改定について情報収集が必要です。	【評価できる点】 ・必要な手続等が適切に行われています。  【改善が必要と考えられる点】 ・特筆すべき事項なし。
		■自動販売機等の目的外使用の手続きを実施	実施	実施			
		■各部門に従事する者は名札を着用	実施	実施			
		■人権に関する講習会等に参加	実施	実施	人権研修を2回実施し、外部講習に3回参加しました		
		■騒音や利用者の迷惑行為に関して、近隣対策を実施	実施	実施			
		■各書類の保存期間を定め、保管・管理	実施	実施	外回り工事に際し、隣接家屋に挨拶、説明を行いました		
		■行政機関が制定する基準等を遵守	実施	実施			
		■法律が制定及び改正された場合、横浜市と協議し対応	実施	実施	平成29年度は対応事例がありませんでした		

平成29年度 吉野町市民プラザ 自己・行政評価シート

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価	
IV収支	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価
1 適切な収支構造及び収支バランスを保ちます。	①適切な収支構造及び収支バランス	■指定管理料にたよらない収入構造を確立するため、民間のノウハウを生かした事業計画の立案と効率的実施 ■収入に対し、管理費、事業費、人件費の割合を精査	実施	実施	事業毎に採算ラインを設定しました。グッズ販売など、収入確保の方策を実行しました	【成果】 ・事業毎に採算ラインを設定しました。グッズ販売など、収入確保の方策を実行しました。 ・収支はマイナスとなりましたが、前年度より改善傾向にあります。 【課題】 ・収支のさらなる改善が課題です。	【評価できる点】 ・収支改善のために、グッズ販売など収入確保に取り組みられた前向きな姿勢が感じられます。 【改善が必要と考えられる点】 ・今後の指定管理期間を通じて、事務費の節減に取り組まれることを期待します。
	②共同事業体の得意分野を活かした営業・広報強化による増収策や、コスト削減など、収支構造を再分析し、短期的、中期的なビジョンを構築	■営業ノウハウを持つ担当者の配置と協賛金獲得活動を実施 ■メーカー系スポンサーからCM出稿される商品のサンプリングを実施	実施	実施	収入面では、利用料金が予算を1,480千円上回りました。支出面では、サービスの質の維持を図りつつ経費削減に努めたものの、人件費、事務費が予算を超過しました。また、収入増にともない消費税が予算を超えました。その結果、収支はマイナスとなりましたが、前年度より改善傾向にあります。指定管理期間全体を通して、新たな収入を増やしプラスとする予定です		
2 指定管理料にのみ依存しない収入構造とします。	①利用料金収入を確保します	□目標利用率(再掲)	ホール/94%(日) ギャラリー/56%(日) 会議室/53% スタジオ/77%(A~C平均)	ホール/97%(日) ギャラリー/57%(日) 会議室/54% スタジオ/80%(A~C平均)	B	【成果】 ・利用日が近づいてからの予約にも柔軟に対応し、利用料収入は予算を1,480千円上回りました。 ・指定管理料以外の収入として、刊行物への広告掲載料、外部への講師派遣料、企画制作費、広報受託料、区補助金を獲得しました。 【課題】 ・協賛金の獲得が課題です。	【評価できる点】 ・施設の利用向上の取組が、利用料収入の増加に結び付いており、高く評価します。 ・また、広告料収入や講師派遣など、収入確保に向けて幅広い取組がなされています。 【改善が必要と考えられる点】 ・協賛金・助成金の獲得については指定管理者のノウハウを生かせる分野として提案されていますので、一層の取組を期待します。
	②コスト削減の徹底 事業費、管理費、事務費について可能な限りの経費削減を実施	■空調や照明などエネルギーの使用量を可能な限り節減し、光熱水費の削減	実施	実施	月刊インフォメーション広告掲載7件 外部への講師派遣、マチノトリエンナーレ企画制作による収入 南区施設間連携事業補助金の獲得		
	③事業費、事務費について職員全員が削減意識を持ち経費節減	■事業者、事務費について職員全員が削減意識を持ち経費節減	実施	実施	「管理標準」を活用し、空調や照明などエネルギーの使用量を可能な限り節減、光熱水費は対予算約34%減と大幅な抑制を実現 見積もり比較による物品選定、発注先の見直しをしました。内部で作業が可能な修理については職員が行うなど、コスト削減に努めました		
3 経費削減及び効率的運営努力を行います。	①コスト削減の徹底 事業費、管理費、事務費について可能な限りの経費削減を実施	■事業者、事務費について職員全員が削減意識を持ち経費節減	実施	実施	「管理標準」を活用し、空調や照明などエネルギーの使用量を可能な限り節減、光熱水費は対予算約34%減と大幅な抑制を実現 見積もり比較による物品選定、発注先の見直しをしました。内部で作業が可能な修理については職員が行うなど、コスト削減に努めました	【成果】 ・「管理標準」を活用し、節電を行いました。光熱水費は、対予算約34%減と大幅な抑制を実現できました。 【課題】 ・事務管理費の削減に努めましたが、消費税や通信環境整備等による経費増を含む収支バランスが課題です。	【評価できる点】 ・燃料単価が下がったこともあり、光熱水費を中心に経費削減が見られました。 【改善が必要と考えられる点】 ・引き続き適切な執行を心がけてください。
	②共同事業体の得意分野を活かした営業・広報強化による増収策や、コスト削減など、収支構造を再分析し、短期的、中期的なビジョンを構築	■事業者、事務費について職員全員が削減意識を持ち経費節減	実施	実施	有償の広報受託 1件		

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価	
その他	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価
市民プラザ2館連携	※市民プラザ2館を指定管理する利点を生かした管理運営の取組 ・施設共同事業の実施による文化活動団体の交流拡大と地域文化の担い手育成 ・安全、安心、快適な施設管理と長寿命化への対応(2施設の建物管理を総合的に行うことで、効率的で迅速な対応を実現)等	・両プラザ連携事業の実施 ・相互の人員協力により、効率的に運営 ・運営ノウハウの共有 ・同規模、同程度の経過年数2館の建物管理を総合的に行うことで、合理的な施設管理を実現	実施	実施	・両プラザ連携企画として「琴ワークショップ」を開催したほか、関内ホールとの3館連携事業「バンドコンテスト」開催準備を行いました。 ・WEB/映像講座は、岩間で初級編、吉野町で中級編を開催しました。 ・事業当日のみならず、受付欠員時の応援を実施しました。 ・同規模・同程度の経過年数2館で設備管理についての課題点を共有し、対応しました。	【成果】 ・新規開催2館連携事業では、両館の強みを生かすことができました。次年度に向けた準備を行い、一層連携を強化します。 個人情報点検シートや利用許可書取扱手順書の共通化など、2館でノウハウを共有しました。 【課題】 ・経年劣化が進む施設の管理面で、連携を強化します。	【評価できる点】 ・受付欠員時の応援は、利用者に信頼される安定した受付業務のためにも必要かつ有効な取組だと考えます。 【改善が必要と考えられる点】 ・引き続き、両プラザの連携により効率的な安定的な運営を期待します。

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価	
総括	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価
						平成29年度は、吉田新田完成350年にあたり、地域の街づくり会、商店会、観光団体等との連携による記念事業実行委員会の事務局を担い、地域拠点としての機能を強化しました。関連事業には多数の参加がありました。また、横浜トリエンナーレ関連事業「マチノトリエンナーレ」企画制作を担い、市域に発信しました。ヨコハマ・パタリエンナーレの稽古場利用や作品制作に協力し、「あみあみワークショップ」の共同開催など、ソーシャルインクルージョンの推進にも寄与しました。共同企業体の高い専門性を活かし、お客様の立場を尊重する運営とともに、小破修繕、清掃、点検など日常管理を着実にを行いました。	・市民プラザの指定管理導入2年目を迎え、運営力の向上が感じられる年でした。 ・特に、吉田新田完成350年記念事業実行委員会の事務局を担うなど、多様なかたちで地域と積極的に交流し、信頼され必要とされる施設運営を心掛けている点を高く評価します。 ・利用者のニーズを把握するためにアンケート等を行い、運営に反映することにより、施設利用率の目標達成と利用料金収入の増額など、目に見える形で成果が出ています。 ・事業の実施にあたっては、ニーズを捉えたユニークな企画による事業展開を行っていますが、収益の面も考慮しつつ一定の取捨選択も必要と感じる面もありました。 ・今後はさらに施設の現状と課題を分析しながら、一歩踏み込んだ取組や、2施設一体公募を行ったメリットを発揮できるよう、検討・取組を進めていくことを期待します。